

Ⅰ 講演（佐藤義務教育指導監）について

【質問】

不登校児童生徒数について、中学1年生の時に大きく増えている一方で、義務教育学校になれば不登校児童生徒数が減少するという話がありましたが、不登校になったそもそもの理由が資料に記載されておらずエビデンスとして弱いのではないのでしょうか。また、学校の授業がどのくらいわかるかについても、詳細を把握しているのでしょうか。小学6年生から中学1年生になった時に「よくわかる」と回答した児童生徒数が減っている根拠を教えてください。（講演資料P17～19）

【回答】

中学1年生に上がる際に不登校が増える理由については、文科省によれば家庭の理由が一番多いとされています。しかし道教委で昨年度、札幌市内の子どもたちに理由を聞いたところ、家庭の理由だけではなく学業など色々な要因があるということがわかりました。今回の資料における詳細な理由の分析までは押さえておりません。また、不登校児童生徒数の減少については、鹿児島県薩摩川内市を例示しているのみで確かにエビデンスとしては弱いと感じています。管内においても義務教育学校や小中一貫校の導入が進んできていますので、今後情報収集したいと考えています。なお、具体的な数字はありませんが、昨日訪問した小中一貫校では、不登校児童生徒数が明らかに減っているとの話を伺ったところです。

学校の授業の理解度の件については、文科省の資料に基づいており、詳細までは押さえていない状況です。

【質問】

湧別町の「ゆうべつ学園」が実際に移行するときに家庭レベル、子ども目線で大変だったことをお聞きしたいです。またそれを地域でどのように応援できるのでしょうか。（講演資料P23～26）

【回答】

湧別町では2年間かけて取り組みまして、非常に困ったことやよく意見が出されたことは、自身が育った小中学校時代の経験から、小学校から中学校においてギャップは必要だという地域の方がいらっしゃいました。その意思統一がなかなかできず、

先ほどの不登校の数もそうですが「中一ギャップ」を解消するためにとご理解いただくのに大きな時間がかかりました。

また、地域の年配の方や自治会の方々と、子育て世代との考え方に隔たりがありまして、時間をかけて話をしました。子育て世代からは、どんどん子どもが少なくなっていく中で友達関係をそんな少ない人数で形成できるのかという意見がある一方で、学校を残してほしいという年配の方々の意見もあり、時間をかけて何度も説明を行いながら合意形成を図りました。子育て世代の意見をどう取り入れていくかということと、子育て世代のメンバーを多めにすることで未来ある学校を作れるのではないかと考えています。世代間の違いというところで、ゆうべつ学園では子育て世代の意見を取り入れながら進めていったところです。

【質問】

義務教育学校と小中一貫校のデメリットに「特別支援学級の連携」がありますが、小中一貫教育になれば先生方の連携が取れることになりメリットのイメージが大きいと思うのですが、デメリットはどのような点でしょうか。（講演資料 P20～21）

【回答】

湧別町での経験からお話ししますと、小学校での特別支援は先生方の専門性があって色々な勉強をされているのですが、中学校ではなかなか勉強されていない部分もあり、指導方法が生徒指導的なところがあります。できないことをできるようにすることを特別支援と捉えている先生が多く、個人の良さを認めながらその良さを伸ばしていくという本来の特別支援に至るまですごく時間がかかったということがあります。

それから教育内容の接続です。自立活動を特別支援では必ず行うのですが、それが中学校となかなか接続しなくて、例えば漢字を覚えるのが苦手という子どもに対して小学校では漢字を読み返したり、図形などの実物を使いながら行っているのですが、中学校ではそういうことをあまりやらず、教科書中心で行っています。そういった小学校と中学校との接続の部分が難しい点でした。

ただ、現在は少しずつ変わってきていますので、美幌町の場合はまだ期間がありますので、学校の中でどのような9年間の学びを作っていくかというところを通常学級だけではなく、特別支援もじっくり時間をかけて子どもの特性に合ったことを考えていけば、デメリットに挙げてはいますが課題解決できる内容だと思っています。

【質問】

地域性を出せるのかなと思い聞いていたのですが、例えば学習指導要領を柔軟に解釈してこの教科は2年生でやりなさいというものを難しいから3年生に持っていく、というようなことはできるのでしょうか。また、色々なお子さんがいる中でとても優秀で学年以上の内容を学べるお子さんがいた時や、逆にこの部分だけ戻って学び直した方が良いお子さんがいたときに学校内でどのような対応ができるのかという点を教えてほしいです。

【回答】

今おっしゃられたことはまさに義務教育学校だからこそできます。授業内容を先取り、中学校で学ぶことを小学6年生で学んでも良いし、逆に難しいと思ったら小学3年生で学ぶことを小学4年生に遅らせながら学ぶことができます。今の教育制度では学習指導要領により小中学校でここまで教えなさいということが決まっています。この辺はゆうべつ学園を例にお話ししましたが、義務教育学校になれば算数・数学のような単元配列表をどう繋げていくか、1年生から9年生をどう見通しながら子どもたちに合った指導ができるのかを考えていくことが可能です。

【質問】

小中一貫教育になって、もし自分の子どもが不登校になった時にどのような対応をするのか教えてもらいたいです。また、新築や増改築の話がありましたが、美幌小学校、千人規模の子どもたちが入る場所があるのに、なぜ学校を建てなければならないのか疑問です。そこにお金をかけるよりも、学校給食をタダにするとか親御さんやお子さんの要望を聞いてあげるなどの方が良いのではないのでしょうか。他には小学校と中学校を1校ずつにするとか、色々な問題を解決した上で、町民の気持ちをきちんと聞いて進めてほしいと思っています。

【回答】

新築・増改築に関しては既存の校舎を活用できないかを検討しているところです。過去2～3年前から義務教育学校の建築費等々の調査をしておりますが、建築費が大きく高騰している現状にあります。また、先ほどの不登校の問題などソフト面の部分についてももしっかり検討していく案件だと思っています。過去に視察に行った中で、箱は立派だけれども中身が追いついていないと思われる学校もありました。建物は既存のものを最大限活用しソフト面も同時に整理しながら検討を進めていきたいと思い

ます。検討にあたっては、先ほどの子育て世代の方にも入っていただきながら、幅広く進めていかなければならないと考えています。教育委員会だけで進める事業では当然ありませんので、皆様と合意形成を図りながら進めて参ります。

なお、補足になりますが、不登校やいじめに関しては、小中一貫教育に関わらず、学校と教育委員会、保護者、地域の方々と協力しながら子どもたちに寄り添っていきたいと考えています。

【意見】

不登校に関して、義務教育学校は令和になってから 240 校くらいあると思いますが、不登校の数は 20 万人を超えて 34 万人ほどになっているかと思っています。これによると義務教育学校で不登校の数が減るというメリットは違うのではないかと思います。

小学校の弱点があるとするならば、学級担任だけで見る事が多くなるということで、中学校では担任の先生がいますけど、教科の先生が入れ替わり立ち替わりになりますので、多くの大人が見ることができて変化に気づき、対応も 1 人の先生ではなく複数の先生で行えます。義務教育学校になることによって、小学校の先生にもそういうアプローチができますし、逆に中学校では、特別支援で丁寧な指導ができないということも指導技術を共有できるというメリットがあるのではないのでしょうか。そこを義務教育学校の大きなメリットとして打ち出して、捉えているメリットに沿ってさらにパワーアップしていけるのではないかという希望があります。

【回答】

小学校の頃から不登校やいじめの傾向の芽を摘むようなことは、中学校の組織的な生徒指導と小学校の個に対応する生徒指導が融合した成果なのかもしれません。今後地域の方々と学校と教育委員会でソフト面、教科だけではなくて生徒指導、特別支援などでどんな指導をしていくのか、指導体制を確立しながら統一した指導ができるような学校づくりを目指していただきたいと思います。

2 町説明（教育委員会）について

【質問】

今後のスケジュールについて、町民説明会が来年の2月くらいに予定されており、それ以降は実行委員の方が話し合いをされていくということですが、町民の意見や気持ちを受け取ってもらえるのは来年の2月でoshiまいということでしょうか。

【回答】

直近で2月というお話をさせていただきましたが、令和7年度は3か月に1回のペースで説明会を実施したいと思っています。6月・9月・12月頃という形になると思います。

【意見】

個別最適な学びと協働的な学びを進めていく中で、児童生徒が苦勞することの一つに成績があると思います。現在の受験制度があることによって、成績はどうしても付けなければなりません。義務教育学校へ変わっていくときに、この成績の部分とちょっと話が飛躍するかもしれませんが、進学先がもう少し柔軟な対応を出来るような形になるとグローバルというか理想に近づいていくのではないのでしょうか。要するに美幌高校との連携などが肝になるのではないかと考えており、地元の美幌高校との流れを作ると美幌町の教育がさらに良い形になるのではないかと考えています。

【回答】

令和8年度には開校準備委員会を設置し、各部会で具体的な検討を行いますが、おっしゃるとおり小学校と中学校だけではなくその前後との接続も非常に大切だと思っていますので、今後例えば幼稚園・保育園や美幌高校との連携についても、関係者の方々のご意見を聞きながら組み立てていければと思います。

【質問】

公立の学校で「イエナプラン」を導入している学校が全国にあります。義務教育学校を立ち上げることによって、導入は可能なのでしょうか。

【回答】

現時点ではそこまで想定しておりませんでした。名古屋市の学校などで導入実績があります。教育課程の中に組み込めるかなどについては学校や地域と議論していく必要があると思いますので、今後研究して参ります。

【質問】

義務教育学校になった時に制服はどうなるんだろうとか、保健室は2つになるのかなとか、素朴な疑問があって発言させていただきました。他の皆さんも様々な疑問があるかなと思いますが、そういう声を吸い上げていただく機会は今後どのようなようになっていくのでしょうか。

【回答】

本日はビジョンについてご説明させていただきましたが、義務教育学校の中身に関してはこれから肉付けしていく形となります。普通教室や特別教室、保健室もそうですけれども、色々な意見を聞きながらどれが一番良いのかを整理していきたいと思っています。本日の開催結果についてもホームページ等で公開しまして、ご意見やお気づきの点がありましたらご連絡をいただき、皆様とより良いものを作っていきたいと考えております。

【質問】

財政危機とかの流れを聞いて、美幌町も最近お金を使いすぎではないかということが頭にあって、その中で小中一貫教育で新しく学校を建て直すとの話を聞いたのでこちらに来させてもらいましたが、簡単に建てるといっても既存の学校を壊さないといけないだとか、それ以外にもすごくお金がかかると思います。建てるだけなら良いのですけれども税金がかかります。何十年後かで町民が1万人切るとかそういう話も聞いていますし、その辺も含めて考えをお聞きしたいと思います。

【回答】

新聞報道等でご承知のとおり、近隣の話で驚いている部分もあるのですが、美幌町でも町民会館、びほーる、庁舎、消防などこれまで色々と設備投資をしてきました。学校を建てるにあたっては、教育委員会だけで進められるものではありませんので、財政当局とも協議しながら進めます。整備方法に関しましても、どの場所が良いのかや児童生徒が今後減少していくという状況を加味しながら検討していきます。また、整備にあたっては補助金や国の補てんが大きい地方債などを活用し、町民の皆様にも過度な負担とならないようシミュレーション（美幌町財政運営計画）を行い、基金と借金のバランスを取りながら、町長を筆頭に教育委員会と町長部局で協議しながら進めて参ります。

【意見】

これから 7 年後のお話ということでありましたが、対象年齢の子どもがいる私たちにとっては今の話なのです。専門家でしたり、教員の方でしたり、その中で色々な議論がされるとは思うのですが、対象年齢の子どもがいる親たちの声をしっかりと聞いていただけるのか、そういうところを大切にしたいです。

また、もし可能でしたら町のホームページなどに進捗状況を載せていただければ、私たちも見ることができますので、そういう機会をいただきたいです。

【回答】

役場の福祉部局とも連携しながら、子育て世代の皆様の声をお聞きし反映したいと思います。また、過去に役場庁舎を整備した際には、広報誌やホームページなどで進捗状況を随時公開しながら進めてきた実績があります。そちらも参考にしながら広報誌やホームページを通じて随時進捗状況をお知らせして参ります。

【意見】

今後、来年の 2 月からコンスタントに説明会をされるということでしたが、もし可能でしたら Google フォーム等で資料の配布は難しいと思いますが、ある程度こういった会議をしますといったような見通しがあると参加する方々も事前に質問や聞きたいことをまとめられるかと思いますので、時間等の管理も含めて対応いただければありがたいです。疲れてくると建設的な意見等も難しくなってきますので。

【回答】

次回から事前に内容をお知らせできるよう検討して参ります。